

<シンポジウム (2)—4—2>臨床てんかん学の最近の診断と治療の最前線

てんかん発作と神経併存疾患の話題

赤松 直樹

(臨床神経 2012;52:1083)

Key words : てんかん, 辺縁系脳炎, 片頭痛, 結節硬化症

てんかん発作は, イオンチャネルの異常から粗大な脳病変に起因するものまで病因は多彩である。したがって, なんらかの神経疾患に罹患しその症状としてのてんかん発作がみられる所謂症候性てんかんが成人てんかんの多くを占める。併存疾患としててんかん発作で最近注目されている話題について報告する。

結節硬化症は, 脳に多発する皮質結節をきたし難治性てんかんの原因となる。脳波では発作間欠期には多焦点性のてんかん放電をきたし, 従来はてんかん外科治療の適応とならないと考えられていた。発作時のビデオ脳波モニタ記録では発作起始は単一焦点のことが多く, 焦点切除で良好な手術成績がえられている。近年のてんかん外科治療の動向について, 併存疾患との関連をふくめて述べる。

自己免疫性辺縁系脳炎は急性症候性てんかん発作をきたす

ばかりではなく, 脳炎後遺症としての側頭葉てんかんの原因として注目されている。辺縁系脳炎の病因として抗電依存性カリウムチャネル (VGKC) 抗体をはじめとする分子メカニズムが解明されつつある。これらの自己免疫が関与しているてんかんについて現在までの進歩をレビューする。さらに内側側頭葉てんかんの成因についてまとめる。

てんかんと片頭痛は以前から関連が注目されている。てんかん患者の約半数に頭痛をきたす。てんかんに関連する頭痛は国際頭痛分類にも独立した項目で取り上げられており, てんかん関連頭痛の性状は片頭痛と似通っている。パルプロ酸は, てんかんと片頭痛の両者に有効である。てんかんと片頭痛の関連についてレビューする。

※本論文に関連し, 開示すべき COI 状態にある企業, 組織や団体
講演料: グラクソスミスクライン社, 大塚製薬

Abstract

Epilepsy and associated disorders

Naoki Akamatsu

Neurology, University of Occupational and Environmental Health School of Medicine

(Clin Neurol 2012;52:1083)

Key words: epilepsy, limbic encephalitis, migraine, tuber sclerosis